

吉備国際大生、タイ・インドへ

国際協力に向け事前研修

吉備国際大（高梁市）社会福祉学部の2、4年生14人が、タイとインドで行う国際協力実習に備え、新見市の公設国際貢献大学校で事前研修として危機管理や現地の習慣を学んだ。

実習は今月中旬に出発して約2週間あり、インドに14人、タイへ4人の学生が向かう。現地の大学と連携し、インドではストリートチルドレンの実態などを調べる。タイでは施設を訪れ、



ボランティア活動をした

ミャンマーに贈る車いすを体育館に運ぶ学生たち（新見市の公設国際貢献大学校で）

り、歌で子どもと交流したりする。

事前研修では、的野秀利・同大学校教授らから、訪問国の概要や不審者に身柄を拘束された場合の対応法などを学んだ。4年丹治陽

子さん(21)は「将来、国際的な福祉活動に携わりたい。今日の講義を参考に勉強してきます」と話した。

講義の合間、県身体障害者福祉連合会（岡山市）から「途上国に贈ってほしい」と、トラックに積まれた車いす50台が同大学校に届いたため、学生らは荷降ろしと体育館に運ぶ手伝いをした。同校は近く、サイクロンで被害を受けたミャンマーに贈る。